

埋蔵文化財センター移転事業に対するパブリックコメントの結果について

埋蔵文化財センター移転事業については、令和2年10月から公共事業評価（事前評価2）を実施し、令和2年11月25日の公共事業評価に関する検討会議で、事業を実施することについて『異論はない』との意見をいただいた。

この度、公共事業評価の結果（市の対応方針（案））等に対する市民意見の募集（パブリックコメント）の募集を実施したので、その結果及び市の対応方針について報告するもの。

1 市民意見の募集の結果

- (1) 意見募集期間：令和2年12月11日（金）～令和3年1月12日（火）
- (2) 意見提出：89人
（電子メール33人、ファクシミリ28人、持参22人、郵送6人）
- (3) 提出意見数：195件

2 提出された意見の内訳

- (1) 埋蔵文化財センターの八幡市民会館への移転・用途変更に対する意見 47件
- (2) 旧八幡市民会館の市民会館としての再開を求める意見 27件
- (3) 旧八幡市民会館の保存に対する意見 23件
- (4) 旧八幡市民会館が村野藤吾設計の建築物であることに対する意見 14件
- (5) 新しい埋蔵文化財センターに対する意見（施設整備への希望等含む） 23件
- (6) 現在の埋蔵文化財センターに対する意見 12件
- (7) 収蔵庫に対する意見 11件
- (8) 事業コストに対する意見 4件
- (9) 事業の推進に対する意見 7件
- (10) 公共事業評価に対する意見 10件
- (11) 旧八幡市民会館の過去の利用についての所感（思い出等） 17件
- 合計 195件

3 市の対応方針（案）-----資料1

これまでの公共事業評価に関する検討会議で示された留意点や、今回頂いた市民意見を踏まえた上で、本事業を「計画どおり実施」するもの。

- 公共事業評価に関する検討会議における留意点とその対応 -----資料2
- 市民意見の概要とその対応 -----資料3

4 市民意見の募集結果及び市の対応方針の公表予定

閲 覧 ・ 配 布：令和3年3月29日（月）～令和3年6月29日（火）
ホームページ掲載：令和3年3月29日（月）～令和4年3月31日（木）

公共事業評価に関する検討会議及び市民意見を踏まえた市の対応方針（案）
（対象事業：埋蔵文化財センター移転事業）

【対応方針】

計画どおり実施

【対応方針決定の理由】

埋蔵文化財センターは、市内の遺跡における埋蔵文化財の発掘調査、出土品の整理と収蔵、学術的な研究、情報発信、展示室における出土品の一部公開等の業務を行っている。

現在の埋蔵文化財センターは、築後35年以上が経過し老朽化が著しく、収蔵スペースや、駐車場、バリアフリー対策が不足するなど、多くの課題が生じている。

一方、旧八幡市民会館は、市議会の議決を経て、市民会館としての用途が廃止されたが、多くの市民から保存を求める声があり、数年にわたり、既存施設の移転先としての活用を検討してきた。

その結果、埋蔵文化財センターを移転することにより、同センターの課題解決と旧八幡市民会館の保存活用の両立を図ることとし、埋蔵文化財センターの移転事業を計画どおり実施することを、公共事業調整会議の結果を踏まえた市の対応方針（案）として決定した。

これを受けて実施した「公共事業評価に関する検討会議（外部有識者による会議）」では、本事業を計画どおり進めることについて「異論はない」との意見をいただき、併せて、今後の事業の推進にあたっての留意点が示された。

続いて、これらの留意点を踏まえた市の対応方針（案）について、市民意見を募集したところ、移転事業の賛否や、建物の保存、新施設への期待や、整備にあたっての希望や提案が寄せられた。また、旧八幡市民会館の思い出等、様々な意見をいただいた。

移転事業に対する反対意見の多くは、廃止されている八幡市民会館を市民会館として再開してほしいという趣旨のものであった。また、村野藤吾設計による建物であることから、外観だけでなく内装も含めた保存を求める意見も多くあった。

その他、埋蔵文化財センターの現地改修を求める意見、旧八幡市民会館は記録保存の後に解体すべき等の意見、文化財として保存すべき等の意見をいただいた。一方で、建物が保存されることへの賛成意見や、移転後の新施設は多くの人が楽しめる施設にしてもらいたい、多言語対応やバリアフリー対応、十分な駐車スペースの確保、村野藤吾の顕彰等、新施設に対する期待や提案をいただいた。

移転事業への賛否はあるが、「現施設の課題」や、「旧八幡市民会館の保存・活用」など、これまでの経緯を総合的に判断して、公共事業評価に関する検討会議で示された留意点や、市民意見を踏まえた上で、本事業を「計画どおり実施」することとした。

なお、新施設の展示や運営内容等に関する意見については、今後、具体的に検討を進めていく上で、参考とさせていただく。

○公共事業評価に関する検討会議における留意点とその対応 資料2

○市民意見の概要とその対応 資料3

公共事業評価に関する検討会議における留意点とその対応
(対象事業：埋蔵文化財センター移転事業)

	公共事業評価に関する 検討会議での意見	市の対応方針（案）
(1) 事業効果を意識 した施設運営に ついて	旧八幡市民会館の建物を残し、埋蔵文化財センターとして活用していくことは、市民に教育やシビックプライドといった効果をもたらす重要な視点である。そのため、今回の費用に対する事業効果を意識し、展示施設の見せ方や料金について工夫すること。 また、旧八幡市民会館の中に村野藤吾に関する顕彰スペースなどを設置することについても検討すること。	旧八幡市民会館は、長年、市民に親しまれてきた施設であり、著名な建築家である村野藤吾の設計による建築物である。一方で、築 60 年以上が経過しており、その建物を「活用」するには相応の費用が必要となることから、埋蔵文化財センターとして充実を図ることに加え、将来の世代に建物を「継承」する意義が伝わるよう、展示等で工夫をしていきたい。 具体的には、旧八幡市民会館に関する展示を行うこととしており、その中で、村野藤吾に関する資料の展示も検討したい。 また料金については、埋蔵文化財センターが調査・研究を行うための行政施設であることを踏まえつつ、他の施設との比較検討も行って、供用開始までに検討を行いたい。
(2) 長期的な視点を持 った施設管理につ いて	今回、施設改修を行った後も、長期的な見通しを持って、費用を節約できるような方策を検討すること。	改修後の施設ができるだけ長期間使用でき、維持管理や施設改修等に要する費用が縮減できるよう、今後の実施設計の中で、長期的な計画についても検討していきたい。
(3) 空間の有効活用 について	旧八幡市民会館にある大きな空間有効活用できるような設計を行い、将来的に逼迫する可能性がある収蔵スペースを多く確保するよう心掛けること。	高層の収蔵棚を設置することについては、旧八幡市民会館の床面補強他の工事が新たに発生することから、改修などのコストを考えて現在の計画としたい。 収蔵品の増加については、本市だけでなく全国的な課題であるため、引き続き収蔵品の精査を行うことで、増加のペースを抑えることとしている。 移転後の収蔵品の状況を見ながら、用途を廃止した施設を活用することや、実施設計の中で、可能な範囲で収蔵スペースの確保を検討するなど、できるだけコストを抑えて、収蔵スペースを多く確保するよう心掛けたい。

(4) 来館者確保に 向けた施設整備 について	周辺の文化施設との相乗効果を考え、小学校の体験学習など、多くの来館者を取り込めるようなソフトとハードの整備を行うこと。	いのちのたび博物館と連携した企画展示を行うなど、東田地区と一体的に利用できるよう工夫したい。特に小学校の歴史学習など団体利用者を取り込むため、新たに大型バスの駐車場を整備するなど、利用促進に努めたい。 また、最新の発掘調査の成果を報告する発掘速報展示や、定期的な展示物の入れ替えを行うほか、旧八幡市民会館の近現代建築物としての価値を発信するなど、多様な層の集客につながるよう工夫したい。
--	--	---

提出された意見の概要及びこれに対する本市の考え方
(対象事業：埋蔵文化財センター移転事業)

以下に、市民意見の概要及び、意見に対する市の考え方を、次のとおり公表します。

◆意見募集期間

令和2年12月11日（金）から令和3年1月12日（火）まで（33日間）

◆意見提出状況

(1) 提出者：89人（電子メール33人、ファクシミリ28人、持参22人、郵送6人）

(2) 提出意見数：195件

	意見概要	本市の考え方
1 埋蔵文化財センターの八幡市民会館への移転・用途変更について		
1	公共事業評価事前評価書を拝見した。各ページ、各項目ごとに詳細に分析され、深く検討され、旧八幡市民会館に移転収斂された企画に敬意を表し、大賛成を表明する。	用途廃止された近現代建築を改修し、既存施設の移転先とすることで、旧八幡市民会館を保存活用することとしています。 移転先の八幡東区平野地区は、教育、文化・芸術施設が集中しており、これらとの連携等、新たな魅力を創造していきたいと考えています。
2	移転が決まり大変喜んでいる。歴史的建造物の保存と有効活用は大変意義のあること。	
3	現在の埋蔵文化財センターは、ユニバーサルデザインの観点から見るといろいろと時代遅れな感が否めない。容易に改善できるとは思えないので、移転についてはいいことだと思う。	
4	八幡の歴史的価値ある建物も残り埋蔵文化財センターも永続する良い案と感じた。	
5	移転には賛成。八幡地区の再開発（スペースワールド跡）と連動し、北九州に人が来てもらう工夫をして欲しい。	
6	八幡市民会館を残す為に移設を支持する。	
7	歴史的建造物を有効活用できる上、課外授業などでも訪れやすい立地である。	
8	移転には賛成である。	
9	八幡市民会館を活用するより、いのちのたび博物館に隣接させた方が、相乗効果により来客数増加が見込める。	
10	原則的には賛成。既存施設の現況での使用継続の意見があるようだが、いつまでも現況を維持することは物理的にも無理がある。外観を維持するという点だけでも大変な英断と思う。	

	意見概要	本市の考え方
11	八幡市民会館の改修及び埋蔵文化財センターの移転に賛成です。成功すれば、類例の少ない近代建築の保存活用・コンバージョン事例として、先進的な事業たりえる。「ホールからミュージアムへ」のコンバージョンは、おそらく世界的にもユニークなもの。建築に興味を持つ多くの人々が、こぞって見学に訪れるような改修事例となることを目指していただきたい。この事業が、市にとって大切な文化財である旧八幡市民会館と埋蔵文化財を、ともに次代に受け継ぐための前向きなプロセスであることを表明し、実行していただくことを望む。今後、前向きで具体的で、市民がわくわくするような完成後のイメージを公開していただきたい。	
12	八幡市民会館の跡活用の方策として埋蔵文化財センターを移転させ、収蔵庫不足の一部解消を図ろうとしているのは、評価出来るが抜本的な解決とはなっていない。	
13	埋蔵文化財センター移転事業については旧八幡市民会館有効活用として評価している。壊さずに次世代に残せば必ず文化財になり、市民の有形財産になると思う。	
14	埋蔵文化財は、大切な財産。また、市民に愛着があり、著名人が設計した建築物を保存・活用することは、文化が根付く土壌を生み出す、大きな1歩になる。オープンを心待ちにしている。	
15	移転について、妥当性があると感じている。	
16	歴史的建造物である八幡市民会館の中に、埋蔵文化財センターが移転されるとのこと、大変楽しみにしている。	
17	旧八幡市民会館のコンバージョンに関して、対応方針をより進化させて推進していただきたい。旧八幡市民会館と埋蔵文化財センターの結びつきは、この地域で生きた太古の人々と、戦後の北九州を力強く担ってきた市民とを結びつけ、ひいてはこれからの北九州を生きる人々の力をつくる大きなきっかけとなるに違いない。旧八幡市民会館と埋蔵文化財センターのつながりを、北九州の人々の営みをとらえなおすきっかけとして、そして、それを発信していくきっかけとして、確実に推進されることを切に願う。	
18	埋蔵文化財センターを旧八幡市民会館へ移転することに反対する。旧八幡市民会館を、埋蔵文化財の倉庫ともいえる役割にしてしまうのはあまりに知恵のない措置。	八幡市民会館は、議会の承認を得て、平成28年3月末に市民会館としての機能を廃止しました。建物については、民間活力の活用を前提として、市民や企業、大学、まちづくり団体などで構成された委員会で、2年以上にわたって活用策を検討したものの、採用には至りませんでした。 その後、旧八幡市民会館を保存活用して欲しいとの市民の意見などを踏まえ、
19	八幡市民会館を埋蔵文化財センターの収蔵庫にする計画には反対。	
20	八幡市民会館は間違いなく国の重要文化財にもなりうる建造物であり、市民が憩いの場として集え、魅力ある近代建築の神髄を内外にアピールできる再生・活用案を目指すべき。埋蔵文化財センターという全く機能の異なる施設を移転して再利用させる発想は理解しがたい。今一度立ち止まって熟慮願いたい。	
21	なぜ埋蔵文化財センターなのか、もったいない。	
22	計画決定過程の当初に遡って検証すべきであり、移転事業はその必要性について根本から見直すべき。	

	意見概要	本市の考え方
23	築 37 年の 埋蔵文化財センターを築 62 年の 八幡市民会館に 移転しようとしているのが大きな疑問。根本的に矛盾している。白紙撤回も含めて検討しなおすべき。公共事業評価資料中の、埋文センター来場者アンケート結果より、移転反対の意見が大多数であることが明らか。この結果はどのように評価・検討されたのか。現在の埋文センターのすぐ近くには、長崎街道、勝山公園の万葉の庭、小倉城、八坂神社、太平洋戦争の遺跡、松本清張記念館、文学館、建設予定の平和資料館など北九州市の豊かな歴史と文化に出会える場所があり、原始・古代からの歴史の語り部として、埋文センターはこの地域の価値と魅力を発信する重要な役割を担っている。埋蔵文化財調査室は、財団本部や市の文化企画課との日常的な連携が欠かせないが、36年間培われた機能性や利便性が、八幡市民会館への移転により損なわれる。	市において、既存施設の移転先として活用することで、建物を解体せずに活用できないかを検討してきました。 その結果、旧八幡市民会館を埋蔵文化財センターの移転先として整備することとしたものです。 ご理解をお願いします。
24	埋蔵文化財センターを八幡市民会館に移転するのは反対。理由は①交通の便が悪くなり、見学者の利益を損なう②近くに自然史・歴史博物館があり、類似施設が近接することになる。公共施設の場合、類似施設は分散して配置するのが通常。	
25	トイレ等に少々手を入れれば、まだまだ使用可能。倉庫にするのはもったいない。	
26	欠陥や問題が多い計画は白紙に戻すべき。施設の老朽化は、理由にならない。多人数の集まるホールの天井の大きな空間は、出土品の調査・分類・展示・保存等の機能には合わない。博物館や大学との共同事業の展開が可能になると移転理由の一つに示されているが、具体的にどのような共同事業が考えられているのか。博物館は「周辺にある」とはいえ、1.6～1.7km（徒歩25～30分）の距離があり、徒歩で「回遊する」には健脚が必要。送迎バスの定期運航が必要では。その予算は見込んでいるのか。小倉北区金田の現在地から最大の収蔵庫のある門司区古城までの距離が確実に遠くなり、作業能力は低下する。距離的に近づいた博物館や大学との共同作業のメリットでは到底補えない。	
27	大空間を有するホール建築を、埋蔵文化財の収蔵庫として利活用する、という考えは、一見合理的に見えるかもしれないが、かなり無謀な方法。2つの空間構成はあまりに違い過ぎる。良好な地盤の上では固有周期が長め（柔らかめ）の構造である、長スパンの大ホールが耐震上有利となる。	
28	八幡市民会館を、大規模改修で「埋蔵文化財センターの収蔵庫（倉庫!）」にする計画に反対。	

	意見概要	本市の考え方
29	現在の埋文センターを八幡市民会館に移転するのは反対。八幡市民会館に埋文センターの用途が違うものを多額の移転費用をかけることや、埋文センター跡地を売却することは、埋文センターの歴史を損失させる。現在の埋文センターは、市の文化企画課や財団本部と近く、36年間培われた機能性や利便性が、移転により損なわれる。跡地の売却見込額は流動的であり、現在の埋文センターの機能や利便性、果たしている役割を失う損失は計り知れず、補えるものではない。埋文センターを移転するために14億8000万円もの莫大な費用をかけ、貴重な建築文化財である八幡市民会館の価値をも台無しにする移転計画は市民の大切な財産を失うだけでなく、税金の使い道に理解できない。現在の埋文センターの屋根、外壁の補修や空調・給排水設備等の早急な更新、展示室等の改善にこそ費用をあてるべき。	
30	城野遺跡の、方形周溝墓の「周溝部分」と「石棺」とを、遠く隔てることになるので基本的には埋蔵文化財センターの旧八幡市民会館移転は反対。	
31	芸術作品としての価値のある建築物であり北九州市の貴重な歴史的財産でもある八幡市民会館を、埋蔵文化センターの物置みたいな場所にするのはとても残念。	
32	コンサートホール機能の存続には多額の予算が必要なことはよくわかるが埋蔵文化財の収蔵場所ではあまりに市民会館が可哀想な気がする。本来の目的に沿った使用ができることを希望する。	
33	埋蔵文化財センターの移転先として八幡市民会館は最も不適切であり、移転事業そのものに正当性がない。ホールを改造して埋蔵文化財の収納スペースを設けることは、最も非効率な用途変更。大空間のホールの価値をまったく活かさず、むしろ消滅させてしまう。移転事業の見直しを強く求める。	
34	八幡市民会館を埋蔵文化財センターにすることに反対。	
35	八幡市民会館は市民の宝と思う。埋蔵文化財センターの移転に反対。	
36	年長者は遠方により交通の便もよくない為、移転には賛成しかねる。今は時期が相応しくない。時間をおくべきではないか。	
37	収蔵倉庫に利用するのは、中止にしてほしい。収蔵倉庫の代用施設は市内に多くあり、多額の予算を使い無理に改修する必要なし。	
38	市の歴史解明の拠点である現センターを修築し、その調査研究成果を公開発信することは、住みやすさ日本有数の都市としての市の価値・評価をさらに高める。埋蔵文化財保存・利活用体制のますますの増強をお願いするとともに、移転事業の見直しの意見を提出する。	
39	移転そのものは否定しないが、旧八幡市民会館への移転は撤回されることを求める。	

	意見概要	本市の考え方
40	「事業提案書」や検討会議の「報告書」に、「提携が図れる」「期待出来る」「可能である」の文章表現が多々見受けられ、移転事業終了後に起こる消化不良を危惧するので、再検討を求める。北九州市の歴史展示施設の立地に関して、「埋蔵文化財センター」の移転により、「市域東部」から歴史展示施設が失われることを懸念する。市域東部において、その歴史に触れる施設がなくなれば、縄文時代以前から連綿と続く北九州市域の 共通の歴史を学ぶ機会がなくなり、筑前・豊前を越えた連帯感の共有にも影響が生じる。身近な歴史に触れてこそその郷土愛の熟成であり、背骨となる体験。そこに触れる機会が無くなれば、市域東部の市民は郷土愛の薄いまま大事な時期を過ごさざるを得ない結果になる。	
41	埋蔵文化財センターを旧八幡市民会館へ移転することに反対する。八幡市民会館を埋蔵文化財の倉庫ともいえる役割にしてしまうのはあまりに知恵がない措置。	
42	地方（じかた）席が有る珍しい八幡市民会館を、倉庫として使用する方向に反対する。	
43	現在の場所の方が小倉城などの北九州市の中心である、文化財エリアにあり、歩いて散策できる現在の場所の方が、事業の目的や必要性からするとよいのではないかと。現施設の耐震改修やバリアフリー工事等行う方が事業の必要性・経済上からもよいのではないかと。それぞれ別々に計画すべき。区役所と併設したホールを建設するのであれば、現在の八幡市民会館の耐震、バリアフリー工事を行った方が、計画性、事業性、経済性からもよい。	現施設の改修を含め、旧八幡市民会館建物の保存活用、現施設跡の高度利用等を総合的に検討した結果、現在の埋蔵文化財センターを旧八幡市民会館へ移転することとしました。
44	市民会館を改修し、埋文センターをそのまま残し、雨もりを直し、地元に着してがんばっている施設を残すほうが、活きた税金の使い方と思う。ムダとも思える事業をやめて欲しい。	
45	北九州市では中央図書館の近くに平和資料館を建設予定。近現代考古学が盛んになりつつあり、現在の埋蔵文化財センターとも距離が近く連携が可能。八幡地区に移転する必然性があるのか疑問。	
46	“そこ（小倉）”にあった物、そして“そこ”で作りに上げた物は“そこ”にあるべき。彼の地（八幡）が宿場町や製鉄で栄えたと伝え聞いている。宿場町や官営製鉄所としての体裁を整えられてはいかがか。	
47	埋蔵文化財センターの現状は理解できたが、築60年以上も経過し5年も前に閉館・未利用となった八幡市民会館を用途変更し活用するというのは疑問である。	
2 旧八幡市民会館の市民会館としての再開について		
48	文化発達の会場として、絶対残すべきだと思う。市民に開放して欲しい。埋蔵文化財センター収蔵庫はもったいない。	八幡市民会館は議会の承認を得て、平成28年3月に市民会館としての機能を廃止しました。 活用予定のない建築物を保存、維持、管理することは困難なことから、そのため、当該建物については、埋蔵文化
49	村野さんが音響工学を勉強して、最高のホールを作られた。素晴らしいホールが八幡にあるのに、なぜ音楽ホールとして使わないのか。八幡市民会館を中心にした音楽の町ということを北九州から発信していくのが、世界に誇れるのではないかと。	
50	耐震補強や内部空間の修理・改装を行えば、十分に使用できる施設であり、必要な修理などを行ったうえで、閉鎖前と同様に活用することを求める。	

	意見概要	本市の考え方
51	なぜ改築する必要があるのか分からない。十分に使える施設であり、このままもっと積極的に利用すべきもの。長きにわたり八幡のシンボリックな建築として愛され続けたものをなぜ引き続き大事にできないのか。八幡市民会館は美しく音響もよく文化的に高い価値がある。	財センターを移転することで、建物を保存活用することとしました。
52	音楽、文化、芸術の基盤としての保存活用こそ優先してほしい。ホールとして活用してほしい。	
53	倉庫として残すことは、建物の文化的価値を傷つける行為であり、文化財エリアの重要な拠点として本来の用途のまま保存利活用を望む。	
54	ホールとしての存続活用を望む。村野藤吾さんは小倉工業高校の先輩でもある。	
55	市民会館として残してほしい。同館は八幡のシンボル、北九州のシンボルとして、多くの人たちに夢と希望を持たせてくれた施設。	
56	音響効果が抜群に良く、場所が利便性に優れているため、「反対です」現存を希望します。	
57	八幡市民会館が解体されず、日本を代表する建築家、村野藤吾の作品が残ったことは、とてもうれしく思うが、埋蔵文化財センターの収蔵庫にすることには反対です。このままホールとして活用されることを強く望む。	
58	北九州市の文化施設は数が少ない。八幡区民の北九州市民の文化活動の拠点の一つとして、引き続き、文化会館ホールとして使えるようにしてほしい。	
59	新生八幡市民会館として再生利活用すべき。八幡東区にわざわざホールを新設するのなら、文化財に指定されるべき評価の高い（旧）八幡市民会館をリノベーションして新しく活用することができる。改修と新設の費用を比較しても妥当と考える。	
60	旧八幡市民会館は多目的ホールではあっても音響の良さという特性を生かすことが大変重要な要素である。八幡や北九州への愛着を育み、良き記憶を生み続けるためにも、旧八幡市民会館は本来の姿のまま存続してほしい。	
61	八幡市民会館を文化財として保存するだけでなく、市民会館としての使用価値を高めるように修正し、利用していくべきである。	
62	八幡東区には演奏会、演劇、講演会等の多目的ホールがない。ここが多目的ホールとして存続できるならさびれた八幡東区が活気を生み出せることにつながる。	
63	ホールの可能性を殺してしまうのはもったいない。是非ホールの活用を。	
64	旧八幡市民会館を埋蔵文化財センターに大規模改修することに反対し、八幡市民会館として再開することを望む。	
65	倉庫にするなどもったいない。ホールとしての改修工事などをして、ぜひ残していただき、音楽や演劇等の発表の場としてまだまだ使って欲しい。	
66	市民会館ホールはすばらしい音響。使用できるように改修をお願いする。	

	意見概要	本市の考え方
67	当初より音楽ホールとして人気があったので、音楽専用ホールとしての活用が、最適と考える。音楽ホールとして活用すれば、収入もあり、継続可能ではないか。この機会に市民ホールにふさわしいネーミングに変更するのもよいと思う。ネーミングは市民から募集してはどうか。	
68	芸術・文化にはこの空間こそが大切であり必要である。 用途変更のための予算があるのであれば、もう一度、文化ホールとしての再生を検討して頂けないか。	
69	ぜひとも再開して、素晴らしいホールでの公演を楽しみ、染色室。工芸室で制作し、美術展示室で作品を鑑賞できるようにしてほしい。	
70	千数百名の観客を収容でき、音響設備も素晴らしいものであり、北九州市はこれに匹敵する設備はない。耐震改修、バリアフリー工事を行うほうが計画性、事業性、経済性からみても妥当。	
71	存続と、文化施設としての活用を強く望む。	
72	歴史的・文化的価値のある建築物の観点からも、北九州市民の文化活動の拠点として活用されることを願う。	市民会館としての機能は廃止しましたが、埋蔵文化財センターとして再活用していきます。バリアフリー、ユニバーサルデザインの視点も、設計に盛り込む予定です。
73	八幡市民会館が「村野藤吾の建築美術作品」としての価値を失うことなく「市民の文化活動の拠点」として活用されることを願っている。	
74	バリアフリーにしてみんなの文化の集う場として復活させての活用を希望する。	
3 旧八幡市民会館の保存について		
75	八幡空襲の跡地に建てられており、「平和の象徴」と言えるのではないか。平和のありがたさを体験できる所と言えるのではないか。村野藤吾の作品でもあり、市民会館としての存続を強くお願いしたい。	旧八幡市民会館の建物については、保存を求める声が一定数寄せられています。 そのため、埋蔵文化財センターとして改修を行います が、内装の特徴をできるだけ残しつつ、外観については極力保存するよう検討を重ねています。 改修後に建物の見学もできるように検討していきたいと考えています。
76	老朽化がすすみ、改善の余地があると思うが、まだまだ十分機能は衰えてないと思う。八幡の見物としてもぜひ残してもらいたい。	
77	近代建築の保存は全国各地で盛んに実施されており、市民の記憶を残し、次世代に受け継ぐ建物としても価値がある。	
78	由緒ある建物を残すことができるのはとてもいいことだと思う。ただし、必要な改修・改築工事はお金を惜しまずにやってほしい。	
79	旧八幡市民会館は今のカタチで残すのがいいのでは。	
80	八幡市民会館は残すべき。パリ・オルセー美術館のように村野建築は「建築の美術館」として残すべき。	
81	第一に村野藤吾氏設計の旧八幡市民会館が保存活用された英慮に感謝している。	
82	ヨーロッパの建物と同様、八幡市民会館も、建物だけでなく、その中に残された伝統や歴史を大切にすることで、それが資産となり、また観光資源となりえると考え。これらを是非とも残してほしい。	

	意見概要	本市の考え方
83	戦災復興都市として「防災、文化、平和」をコンセプトに形成された八幡駅前の景観と八幡市民会館は、未来に伝えるべき「市民の資産」。	
84	市民会館の建物の文化的価値は客観的、総合的に見て、大変貴重な、市民、国民の財産。	
85	改修工事をするのであれば、村野藤吾設計の旧八幡市民会館を存続の意味で行ってほしい。	
86	その建築物が名建築物または文化財級と認めたら、修理費がかさんでも調達して後世に残すのが使命ではないか。	
87	埋蔵文化財センターが移転し、村野藤吾氏の建物が残るのは喜ばしいことだと思う。	
88	旧八幡市民会館を復活・活用し、北九州市の文化財とすること。旧八幡市民会館は、村野藤吾の設計であり、建物自体に文化的価値のある優れた建造物。	今回、埋蔵文化財センターの移転先として建物を保存活用することとしましたが、内部の改修を行うことから、内部については記録保存を行います。一方、現時点で文化財調査を行うことは考えていません。
89	市民会館のような「隠れた文化財」とも言える建物を、文化財に登録または指定推薦すべきではないか。「旧八幡市民会館」を中心としたこの八幡駅前界隈がまさに、文化観光事業の拠点となるのではないか。	
90	八幡市民会館は、有形文化財として登録し保存活用を図るべき施設。	
91	ぜひ文化財として残し、活用していただきたい。	
92	村野藤吾による八幡の戦後復興のシンボルとして旧八幡図書館と八幡市民会館は国の重要文化財として、保存すべきであった。	
93	世界的にも有数の建築家の物としても十分に文化的価値がある。外も内もそのまま文化財指定することが住民の誇りとなり得る。文化的要素の強い市民会館を文化財に。	全ての近現代建築を永続的に残す方針はありませんが、旧八幡市民会館の建物については、保存を求める声が一定数寄せられていることから、埋蔵文化財センターの移転先として建物を保存活用することとしました。
94	旧八幡市民会館を復活・活用し、北九州市の文化財とすることを求める。	
95	市民団体から、貴重な建物だから文化財指定してはどうかとの意見が寄せられているようだが、文化財指定するということは、100年、200年と、その建物を未来永劫、保存管理していくということ。建物の保存に多大な経費がかかってしまい、結果的に（他の）埋蔵文化財に投資すべき予算が減ることを懸念する。本末転倒を起こさないためにも、建物の記録保存を行って解体する、あるいは建物の象徴的な一部を利用して村野藤吾を顕彰する場所を作る等も選択肢の一つではないか。近現代の著名な建築家の作品は、国レベルで見て代表的なものを文化財指定し、厳選して保存していくべき。	
96	市民会館は、建造物の専門家のような一部のだけでなく、例えば到津動物園のように、市民の多くが残すことを求めている建物なのかに疑問を感じる。	
97	近代建築物としての価値を客観的に見た場合、未来永劫文化財として残す価値はないと私考する。ただ、建物の図面や写真を記録し、後世に残すことは価値あること。八幡市民会館については3D測量等を行い、記録したのちに解体。という意見を提出する。北九州市には類似の建物が他にも存在するが、市民から残せという声が出れば、全て同じ対応をするのか。市の厳しい財政事情を考えれば、とても無理。	

	意見概要	本市の考え方
4 旧八幡市民会館が村野藤吾設計の建築物であることについて		
98	内装の一部は2階にコーナーを設けると聞いており、村野藤吾さんのすばらしさも後世に残すことができそうで安心。	八幡市民会館は平成28年3月に市民会館としての用途を廃止しました。長い間市民に親しまれてきた建物であること、村野藤吾設計の建物であることなどを総合的に判断して、建物を活用しつつ保存することとしました。
99	国の重要文化財の宇部市民館から、八幡市民館、米子市公会堂を経て、いずれ国の重要文化財となると思われる日生劇場まで、一連の村野藤吾のホール建築の流れを見ることができる貴重な建築資産なので、そのまま、劇場（ホール）として残されるのがよいと考える。	市民会館としての用途廃止については、公共施設マネジメントの総量抑制の考え方等を踏まえ、市民会館・文化ホールの配置、規模、利用状況などの検討を重ねた上で、総合的に判断した結果です。 そのうえで、建物については用途を変更して、保存活用することとしています。
100	村野藤吾氏設計のホール建築は村野氏の代表作品で、各地域で現在でも多くの市民に愛され利用されている。村野藤吾氏設計の建物は美術的価値があるので、内外装含めて既存のまま保存改修していただきたい。村野藤吾氏設計のホール建物の代表的建物には、宇部の渡辺記念館、米子公会堂、日生劇場等がある。近い将来専門家の間では、これらすべての建物が、文化財に指定されるのではと言われるている中、八幡だけが、ホールをなくすようなことがあっては、北九州市として大きな損失ではないか。	
101	八幡市民会館は、日本を代表する建築家村野藤吾氏設計の建物であり、戦災復興の象徴。今、近代建築の老朽化による解体を見直し、費用はかかっても貴重な文化財として保存活用する自治体が増えている。「建築美術作品」であり、内部と外観をどちらも重要であり、すばらしい音響、星空の大天井などすばらしいホールを収蔵庫にすることは文化的価値を損なう。	
102	村野藤吾作品の価値を損ねる改築がなされれば、負の遺産として歴史に残る。	
103	村野藤吾作品として絶対に残すべき。そのままであってほしい。	市民会館としての機能を廃止し、埋蔵文化財センターとして活用することから、必要な改修は行うこととなります。 そのうえで、内外装とも、できる限り保存したいと考えています。
104	村野藤吾のすばらしい建築をそのまま残し、大規模改修してほしくない。	
105	村野藤吾設計の八幡市民会館は、内外にわたるデザインはもとより、施工技術は抜群の質をもっている。北九州の歴史遺産を破壊しようとするのか。	
106	村野藤吾さんが戦災復興のために建てた建築物。文化遺産だと思う。	旧八幡市民会館は、本市にゆかりのある著名な建築家である村野藤吾が設計した建物ですが、活用予定のない建物を保存、維持、管理することは困難です。
107	郷土の建築家村野藤吾の作品は、日本でも数少なく、これをきちんと保存し利活用することで、北九州市の文化遺産を守るという姿勢、市政を広く内外にPRできる	

	意見概要	本市の考え方
108	村野藤吾先生は、日本が世界に誇る建築家であり、八幡市民会館は、戦後復興の象徴であり、文化活動の拠点である。	そのため、当該建物については、市民会館としては廃止しましたが、埋蔵文化財センターを移転することで、建物を保存活用することとしました。 改修後の施設内には、村野藤吾に関わる展示や、八幡市民会館の建設の経緯や歴史を紹介する展示コーナーを設置することを検討しています。
109	北九州市の文化遺産としての村野藤吾さんの建築物を残して欲しい。	
110	有名な村野藤吾の美術作品としても価値の高い建築物。	
111	村野藤吾は世界的な建築家。建物は壊したらもう終わり。国や自治体は歴史的建造物は何とかして残すべき。	
5 新しい埋蔵文化財センターについて（施設整備への希望等含む）		
112	最新の展示技術を使って、子供でも分かりやすく親しみやすい展示にしてほしい。国際大学も近いので多言語対応や、病院が近いのでバリアフリー対応にすることも大切。	新しい埋蔵文化財センターの整備や運営に関し、多くの意見やアイデアをいただいています。 今後の検討の中でできる限り具体的に反映させるよう努めていきます。
113	埋蔵文化財は、保存、研究、調査等だけでなく。広く開放し普及啓発を行う必要がある。今後の運営方法、展示方法が、来館者の増減に大きく影響する。視覚、聴覚だけでなく、触覚を取り入れた展示をして欲しい。ジオラマを多く展示してほしい。歴史的に関係の深い朝鮮、中国を意識した展示をして欲しい。将来、東田地区と皿倉山登山ケーブルをモノレールで繋ぎ、中間に埋蔵文化財センター駅を造って欲しい。	
114	2階ロビーを一部ではなく、フルに活用してほしい。売店や喫茶スペースなどを検討できないだろうか。	
115	市民講座等の回数を増やし、子供たちの教育の場としての活用もお願いする。多少の改修費用、保全費用が掛かっても、北九州市の遺産として後世に残し守ってほしい。	
116	収蔵資料を第一に考えた設計にしてほしい。また、出土資料の復元などの作業を行う環境を十分に整備してほしい。重要文化財を展示可能な施設としてほしい。今ある場所は交通の便がいいとは言えないので、多少なりとも駅に近くなるのはうれしい。駐車場は十分なスペースを確保してほしい。有料化は周辺施設との兼ね合いからやむを得ないにしても、入館者に対する駐車料金の減免は行ってほしい。人員措置の面でも頑張ってください、埋蔵文化財保護行政のさらなる充実に資して欲しい。埋蔵文化財センターの本分は出土遺物の保存管理にあるわけであり、そちらが優先されるべきだと思うが、同時に展示や講座などを通じて埋蔵文化財が重要であることを広く知らしめる活動に積極的に取り組むことも重要な使命である。普及啓発活動が十分に行えるようにして欲しい。	
117	新しい埋蔵文化財センターは明るい雰囲気ですぐに立ち寄れる施設に整備してほしい。とくに建物周辺には遊具（大人対象の健康遊具）なども整備してもらえれば、子どもや周辺住民、八幡病院の関係者等がたとえ中に入らなくても気軽に立ち寄れる施設になるのでは。	

	意見概要	本市の考え方
118	多くの人が楽しめる施設にしてもらいたい。新しい施設の完成を楽しみにしている。	
119	子供から大人まで興味を持ち楽しむことができる開放的な空間での展示を期待する。	
120	移転後の有効利用に期待する。地域住民が気軽に利用でき、子供達の関心を引くようにしてほしい。	
121	今後、従来のような大規模な土木事業はほとんどなくなり、発掘調査も急減すると考えられる。今後は、これまでの発掘調査で得られた出土遺物や写真・図面などの記録類を公開・活用することが強く求められる。そのためには膨大な量の出土品を再整理し、資料として利用できるようにする必要がある。発掘調査に重点を置いた体制から脱皮し、埋蔵文化財の効果的な活用を重視した体制を構築することが重要。新しい埋蔵文化財センターは、単に埋蔵文化財の業務に矮小化した施設ではなく、文化財全般を対象とするような（例えば「文化財センター」のような）施設として整備してほしい。	
122	（展示において）欲しいのは（その展示物とは）何なのか、歴史的にどうとらえられているのか、ここで出土したことの意味は何なのかという説明。文献資料があればその説明などを行って、この事実が歴史上、どの地点にあるのかを含めて丁寧な説明を心掛けるべき。決して手を抜いてはいけない部分。これらのことの前提として、人員の拡充を図る必要がある。内装については徹底して今後の埋文向けに改修すべき。それが建物のより長い維持につながる。中途半端な妥協は誰のためにもならない。土器修復作業など魅力的な現場を積極的に公開していくこともあって良い。埋蔵文化財センターというのは一部の人以外には敷居の高い施設。これを打破する施設設計をぜひ行っていただきたい。	
123	車でも八幡駅からの徒歩でも、入り口がわかりやすく、バリアのない、通りやすいアプローチの工夫を望む。埋蔵文化財センター・いのたび・世界遺産展望施設などを結ぶ、グリーンスローモビリティなどの導入も、視野に入れてほしい。移転にあたって、もっと親しみやすい「愛称」を付けてはどうか。八幡出身の巨匠、建築家・村野藤吾を顕彰する展示もしていただきたい。	
124	極力外観デザインや場内の音響壁面はそのままにして村野が手掛けた音楽ホールの名残を次世代にも伝わるように保存活用して欲しい。埋蔵文化財の保管庫のみに限定せず、村野建築を見学出来る見学コースを作り村野建築を肌で感じる事が出来る文化財施設にしてほしい。	
125	建築ファンが訪れた折に喜んでもらえるように、設計当初の魅力ある部分は残していただくよう要望する。市の貴重な文化財が保存整理されるセンターとして、市民が利用しやすい場所となることを希望する。いのちの旅博物館との連携や、広い駐車スペースの活用は旧埋蔵文化財センターでは実現できないメリット。より親しまれる施設が出来上がるのを楽しみにしている。	
126	市内には、他にもたくさんの近代的建築物が存在している。市内の近代建築物を一堂に紹介する展示コーナーの設置を検討してはどうか。埋蔵、建築といった文化が掛け合わさることで、新しいイノベーションが起こるかも知れない。	

	意見概要	本市の考え方
127	いのちのたび博物館からの回遊については、博物館内はかなり歩くので、さらに八幡市民会館まで行って廻るのは疲れると思う。	
128	移転に伴い現埋文センターの展示が改善されれば素晴らしいこと。希望①館内をもう少し明るくする。②土器に触れられるコーナー（遊びのコーナー）を設ける。③区別ごとに、主な遺跡の紹介をする。	
129	明るく展示物が見やすくしてほしい。また、子どもが来館しても楽しめるコーナーがあってほしい。いろいろな体験コーナーがあってほしい。いろいろな体験コーナーも年中いつでも開催して、たくさんの人が来やすい施設になってほしい。	
130	展示室を現センターより明るくして欲しい。城野石棺のコーナーに設置されているスロープを、現状よりゆるやかにした方がよい。	
131	立地場所を生かして、「八幡空襲」と一緒に展示を考えてはいかがか。新しい平和資料館は勝山にできるが、八幡でも平和学習の学びの場があると、尚一層学習の機会が増える。新しいセンターでは、考古学、文化学、平和学の融合の施設としてのスタートを期待している。	
132	ガーデンテラスのような休憩場所と自動販売機を設置し、埋蔵文化財の展示だけではなく市民の憩いの場を設けてほしい。また展示室に、子どもが身近に感じる様な体験型のスペースを作してほしい。	
133	一極集中となり、管理・保存などは容易になるが、移転先が八幡東区になる為、他区からの来訪者が減少するのでは。	
134	多額の費用が発生する訳であり移転後の運営を市民の為になる様しっかり行うことを願う。	
6 現在の埋蔵文化財センターについて		
135	現在地が最も地理的にふさわしく、築37年でありまだまだ使える。埋蔵文化財を保管する場所としては、閉校した校舎など、他にもある。市民の財産を易々と払い下げることに問題がある。	現施設の耐用年数だけでなく、旧八幡市民会館建物の保存活用等について、検討を重ねた結果、現在の埋蔵文化財センターを移転することとしました。 これにより、埋蔵文化財センターの機能充実と、近現代建築の保存の両立が可能となると考えています。
136	築37年でありまだまだ使える。コンクリート建築の寿命は60年であり、補修して使えばもう20年は問題ない建物のはず。小倉で根付いた歴史・文化の情報発信拠点を失うこと、更には考古学講座や発掘体験などを通して培われた市民と埋蔵文化財センターとの相互交流の芽を摘み取ることは愚策以外の何物でもない。そもそも埋蔵文化財センターは展示施設を併設しているのであり、博物館施設ではない。36年間この地で埋蔵文化財センターの果たした役割を今一度考えて欲しい。	
137	修理をすれば十分しようにできる施設であり、現在の位置で修理し・存続活用すべき。	
138	現在の埋蔵文化財センターは耐用年数60年であり、20年以上使用すべき公共施設。城野遺跡の箱式石棺が八幡市民会館に移転すれば、方形周溝墓からますます遠ざかり、その価値と魅力が半減する。2016年に箱式石棺の移築展示のために多額の税金を投入してリニューアルしたばかり。平和資料館が完成すれば、現在の埋文センターに併設された戦時資料展示コーナーのスペースにも貴重な資料を展示できるようになり、八幡市民会館に移転した場合の展示室より広くなる。	
139	埋蔵文化財センターについては現位置にて大規模改修を行い維持。	

	意見概要	本市の考え方
140	今の場所で建て替えがよいと思う。立地としても小倉城や勝山公園からも近く、子供達が行きやすい場所が近くにあると、興味を持っていくと思う。	移転先の八幡東区平野地区は、教育、文化・芸術施設が集まっているエリアです。交通の便もよい立地となります。
141	埋蔵文化財センターは現在地が最も地理的にふさわしく建物自体も築歴37年で、まだまだ使える。	
142	(現在の埋蔵文化財センター敷地は) 将来増加してくるであろう近隣住民のためには、公共施設の必要性も増加してくると考えられ、跡地は、そのための用地として市有地として保有し続けるべき。	公共施設マネジメントの考え方にに基づき、有効利用を図ってまいります。
143	現、埋蔵文化財センターはアピール不足で、建屋の前を歩かないと解らない状態。	現在の埋蔵文化財センターへのご意見を、新施設の設計、運営等に活かしていきます。
144	埋蔵文化財センターは、都心部にある必要性、必然性がない。	
145	現施設は、旧博物館だった為か、空間が広く暗く感じる。展示物の照明もあたりかたによって見にくいところがある。	
146	現在の展示室は、古代から近世まで工夫されておりいつも興味深く見学している。小中学生がもっとわくわくするような展示だともっと入場者が増えるのではないかと。とくに中学生の来場はあまりないのでは。	
7 収蔵庫について		
147	ホールを使った収蔵庫は空間を生かし切れておらず、内部を複数階層にして収蔵量を増やすとか、大規模自動倉庫を導入し、他地域の埋蔵物の保管をアウトソーシングするとかなど発展性ある案への拡大を望む。空調の電気費用がかさむであろうことから近隣の製鉄工場から買電してはどうか。	ホール空間の多層的な利用は検討しましたが、設備の導入、床の補強等は、コストが大幅に増加すること等から、行わないこととしています。が、できる限り効率的な収蔵に努めます。
148	収蔵庫問題について、今回の埋蔵文化財センター移転を契機に、もっとオープンにし見識ある市民の声を聴くべき。そうすれば、色んなアイデアなり建設的な意見が出る。	
149	企業等で、在庫品や部品、配送品の自動化が進められている。先端の収蔵庫システムを導入してはいかがか。それが一般に見れる様になれば、より多くの見学者が訪れるひとつのきっかけになる。また、そういったシステムを開発する企業が市内にあれば、地元企業の研究開発支援といった要素も加えられる。	
150	移転しても11年で一杯になるのは今回の計画そのものに問題がある。小倉北区の廃校になった小学校等の施設を収蔵庫とするなり根本から見直した方がよい。	増え続ける埋蔵文化財を収蔵するスペースの不足は、本市にとっての課題です。今後も、既存の空き施設等の有効活用も検討していきます。
151	新埋文センターは収蔵庫が増えても、全体の84%にあたる80,000箱の出土品を収蔵している門司区の古城収蔵庫はそのままであり、現在の埋文センターですら遠すぎるのに、八幡市民会館に移転するとますます遠くなり、埋蔵文化財の管理や利活用に更なる支障をきたす。不足する収蔵庫は空き小学校等を利用した方が経済的である。	

	意見概要	本市の考え方
152	オープン後7～8年すると、又もや収容率は100%になると予想される。これでは多額の費用をかけて埋蔵文化財施設をつくる意味がない。市内小中学校の廃校跡は、収蔵庫に適した空間（教室群）と共に、運動場の広い土面はいろいろな展示に使える。そのようなところに移転すべき。	
153	埋蔵文化財センターの本質的な業務である。出土資料の保管環境が多少なりとも改善されるのもいいことだと思う。分散収蔵は管理の面からも問題が大きいと思うので、できれば一括集中管理の体制を作してほしい。	一括収蔵が可能となる空き施設はなく、大規模な収蔵庫の新設は困難なことから、今後も、既存の空き施設の有効活用を行います。
154	現状の計画では、収蔵スペースは増加しているが、市内に分散している収蔵庫は一部を除き現状のままとなる。この状況は現状と変わらない。移転を行うのであれば、現状の施設の問題点を改善できるよう行う必要があり、問題点の改善が見込めない場合は、経費節減よりもむしろ今後の経費増大につながりかねない。	
155	全体の84%にあたる 80,000 箱の出土品を収蔵している門司区の古城収蔵庫は、八幡市民会館に移転するとますます遠くなり、埋蔵文化財の管理や利活用に更なる支障をきたす。	
156	古城収蔵庫の80,000 箱、そして浜町収蔵庫の4,100 箱を含めた一括収納を考えるべき。八幡市民会館の2 階、3 階に設けるという「倉庫」に何を入れるのかも明らかにしていないが、端的に言えば今回の移転事業で一番得をするのは文化企画課といのちのたび博物館の出土遺物。財団組織を下位に見るように、出土遺物にまでランクをつける今回のプロジェクトには大義がない。	
157	埋蔵文化財センターは、埋蔵文化財保存、活用の中心的存在であり、現在門司区、小倉北区、小倉南区、若松区に分散保管している遺物は一ヶ所で集中管理すべき。南方収蔵庫だけを移転すればよいとはならない。埋蔵文化財調査室の分散保管分も含めて、全てを一カ所にまとめると確約してほしい。	
8 事業コストについて		
158	今回の改修は、費用が20 億かかり、耐久年数が20 年となっているが、公共施設なので、最低でも40 年程度維持できるような試算をすべきではないか。移転後取り合えず20年もてばとのことであったが、あまりにも無責任な説明ではないか。	本事業については、事業コストをはじめとして、埋蔵文化財センターの機能充実や近現代建築の保存活用といった効果等を総合的に判断して推進していますが、事業コストについては、引き続き、できる限り抑えるよう努めます。
159	全く機能の異なる八幡市民会館の大改修に莫大な費用をかけた上、現在の埋文センターと南方収蔵庫を失うことは、税金の無駄遣いであり、市民の大切な財産の放棄。埋文センターを4 億6 4 0 0 万円で改修すれば、埋文センターと南方収蔵庫の建物も土地も市民の財産のまま手放すこともない。	
160	改修計画が、長く将来を見据えたものになっていないように思われる。埋蔵文化財センターが1 1 年で満杯になる。とりあえず2 0 年もたせるという前提で考えられていることが、市民会館の存続を望む人にとって、事業に反対する動機になっている。	

	意見概要	本市の考え方
161	60年も前の建築物の為、結局、年間維持管理費が試算より増額となり十数年のうちに改修費と含め、管理費が新規建設と同額程度にはならないのか懸念される。世はコロナ禍である。実行するのであれば、試算よりも安価にて移転事業を完遂するべきである。	
9 事業の推進について		
162	施設の歴史的価値、文化的意義をもう少し議論して事業を進めるルールを作っていただきたい。	本事業は、長い間市民に親しまれてきた旧八幡市民会館の建物を、既存施設の移転により保存活用するものとして、時間をかけて十分な検討を重ねたうえで、専門家等の意見も求めながら進めてきました。 今後も事業の推進にあたっては、様々な要因を十分に検討し、総合的に判断していきます。
163	基本設計完了時には、設計者を含めたワークショップを開催すべきではないか。具体的に市民に公開すべき。	
164	「埋蔵文化財センター移転事業」は八幡市民会館の利活用に 行き詰った末の 苦肉の策 であり、現在の 埋蔵文化財センター が 37 年間 培ってきた 機能 性や利便性、すぐ近くの小倉都心部で果た している役割 が一切検討されていない。埋文センターを八幡市民会館に移転するために19億1900万円もの莫大な費用をかけるのは、埋蔵文化財センターと八幡市民会館のいずれの価値をも台無しにし、市民の大切な財産を失うだけでなく、税金のムダ遣いである	
165	利活用については、建築関係者、音楽関係者、各種活動の方々の意見を広く募り、検討してもらいたい。	
166	「現在の埋文を売ってしまえば跡地が高く売れ、市の借金の穴埋めになる」という下品な発想は止めてほしい。お金がかかるならクラウドファンディングもある。	
167	北九州市の行政担当者にも部外者にも真面目さと真剣さがみられない。禍根を残さないためにあらためて専門家の衆知を集め学ぶことからやり直すこと。	
168	現在の埋蔵文化財担当部署の人員拡充・体制の整備と活性化、「埋蔵文化財行政と史跡整備に関する中長期ビジョン」を策定した上で、本事業を再発進してほしい。	
10 公共事業評価について		
169	この事業の検討会議に、埋蔵文化財を専門的に扱う者が入っていないことは驚き。北九州市文化財保護審議委員の考古学関係者の意見を是非反映させてほしい。	本事業の公共事業評価は、要綱等に沿って実施しています。 また、十分な時間をかけ、市民、企業、大学、まちづくり団体等により構成される委員会、専門団体、専門家等の意見を聴取していることを報告の上、検討会議に付議し、評価をいただいています。
170	外部構成員はどれだけの情報を得て、その専門的知見で了承したのかが疑問。いくつかの質問はあっても、それを突き詰めることもなく全体として了承を得たとするのは、事業評価の主旨に沿っていない。移転事業を既定事実として、その先だけを評価する姿勢は根本的に間違っている。	
171	埋文センター問題を通じて、民主的市政の在り方を論ずる場にしては。行政の立場、住民の立場から、一定の納得の上で結論を出すべき。	

	意見概要	本市の考え方
172	委員選出手続きをやり直した上で、公平なメンバーでの事業評価差し戻しを求める。本件の委員会評価は、公平・公正に欠けた評価で、検討会議のやり直しが必要。新たな構成員での再審議を。今回の事業評価について、検討会議は担当部局の提案に対し、どこまで具体的に踏み込んだ議論・調査をしたのか。不足や不備があれば、全ては絵に描いた餅である。	
173	他都市の事業評価制度では、市民参加度、市民満足度などが重視されているが、本市の事業評価にはその視点が入っていない。事業評価検討会議でこの点を議論するべき。	
174	計画の段階で、パブリックコメント等の市民参加の場を設けるべき。外部評価委員会は、1 時間程度ではなく、もう少し時間をかけた議論をつくすべき。他都市に比べて評価事業制度の内容（市民参加制度、市民満足度、市民と行政の役割分担評価）等に市民軽視的不備があるのではないかと。市民と一緒に評価制度そのものについて考えるべき。	公共事業評価は、公共事業の必要性や効果等を客観的に評価するとともに、市民の意見を踏まえることにより、実施や継続等の判断について、客観性と透明性の向上を図ることを目的とし、手順については、要綱等で定められています。
175	北九州市の公共施設に関する施策の策定においては、市民憲章にも明記されているように、なるべく早い段階から市民参加を実現することが必要。	
176	基本設計にあたって、市民ワークショップ形式を用いて広く市民や専門家から意見を集めて進める方法を是非採用していただきたい。市民と役所の分断を防ぐ方法になる。	
177	改修に向けて、市と市民、設計者、また市外も含めたコミュニケーションの場を、積極的に設けることが望ましいと考える。	
178	本来、市民にパブリックコメントを求めるタイミングは、事が進んでからでは意味がない。事業に着手する前にやるべきこと。	
11 旧八幡市民会館の過去の利用についての所感（思い出等）		
179	建設時から閉館に至るまで一般市民として利用し、文化の息吹を享受してきた。	旧八幡市民会館は多くの市民に親しまれた施設でしたが、平成28年3月末をもって、市民会館としての機能を廃止しました。 今後の改修に際しては、旧八幡市民会館のメモリアルコーナー等を設置し、設置の経緯や歴史などの展示を行うことを検討しています。
180	毎年学校の予餞会で使っていた。駐車場も十分なスペースがあり、汽車の便もよかった。	
181	子どもの頃から慣れ親しんだ会館。歌舞伎や音楽のコンサート、劇団の観賞、子供の発表会、音楽会など、数々思い出がある。	
182	劇団民芸のイルクーツク物語、ジャズ、軽音楽に触れた初めての場所。戦後の北九州市の歴史と伝統がつまっている。	
183	演劇や音楽会等たくさん観てきたホール。	
184	私は音楽を生業でやっていた。八幡市民会館でも演奏した。八幡市民会館は国内外の偉大な音楽家が絶賛をしているホール。	
185	八幡市民会館は私の64 年の人生の文化の拠点であった。	

	意見概要	本市の考え方
186	ポリショイバレエを観て驚愕した感動は忘れられない。ボストンシンフォニー公演で初の生演奏体験に歓喜した。	
187	娘や息子達が小さいころからずい分利用した。思い出がいっぱい詰まっている。	
188	高校生から最近まで、たくさんのコンサート、演劇などを見てきた。音響効果が良くジャズ、歌謡ショー、オーケストラ、ピアノ独奏も素晴らしく楽しめるホールだった。	
189	身近にあって何十年も利用してきた文化施設。	
190	音楽、演劇、バレエなど鑑賞してきて、その音響はすばらしいものでした。内部のデザインも素敵です。	
191	わかいとき、市民劇場の例会として利用していた。公演が終了して、利用者が退場の時、階段をおりなくてもドアが開いて、スロープ（坂）で退場でき、スムーズでとてもよかった。音響も素晴らしい	
192	八幡市民会館でも演奏会での出演や観客としても多く参加した。イベント、演奏会の会場としても、又、学校の音楽行事でも使用されてきた。	
193	50数年前の高校生の時、建築様式といい、音響の良さに高校生ながら感動したことを鮮明に覚えている。	
194	人生を彩る文化の拠点として、大いに親しんできた。	
195	文化的事業、予餞会を行うとき、生徒は、体育館ではなく八幡市民会館だと知るととても喜んでいた。	

埋蔵文化財センター移転事業公共事業評価について (パブリックコメントの実施)

1 公共事業評価について

一定規模以上の公共事業で、実施段階の経費を新たに予算化する前までに行うもの

【実施の流れ】

① 内部評価（公共事業評価調整会議）・・・10月28日（水）

② 外部評価（公共事業評価に関する検討会議）・・・11月25日（水）

③ パブリックコメント

期間：令和2（2020）年12月11日（金）～令和3（2021）年1月12日（火）

2 事業概要

老朽化し、多くの課題が生じている、埋蔵文化財センターを移転する。

移転先は旧八幡市民会館とし、用途変更に必要な改修を行う。

移転に伴い、南方収蔵庫も統合する。

（1）事業箇所 八幡東区尾倉二丁目6番5号

（2）事業期間 令和2（2020）年度～令和6（2024）年度

令和2（2020）年度	基本設計、公共事業評価
〃 3（2021）年度	実施設計
〃 4（2022）～5（2023）年度	改修工事、展示設計
〃 6（2024）年度	改修工事、展示工事、 オープン予定

（3）事業効果

①現在の埋蔵文化財センターの課題（老朽化、収蔵スペースの不足等）の解決

②旧八幡市民会館の保存と活用

③移転に伴う現施設跡地及び南方収蔵庫跡地の有効活用

④新施設周辺の他の文化施設との連携、八幡東区平野地区の活性化

（4）全体事業費 1,919百万円

（単位：百万円）

事業費内訳		市費	国庫補助	起債
設計監理	123	251	55	1,613
改修費	1,546		文化庁補助	地域活性化事業債
解体費	60		※展示工事費	（公共施設等適正管理
その他	190			推進事業債）

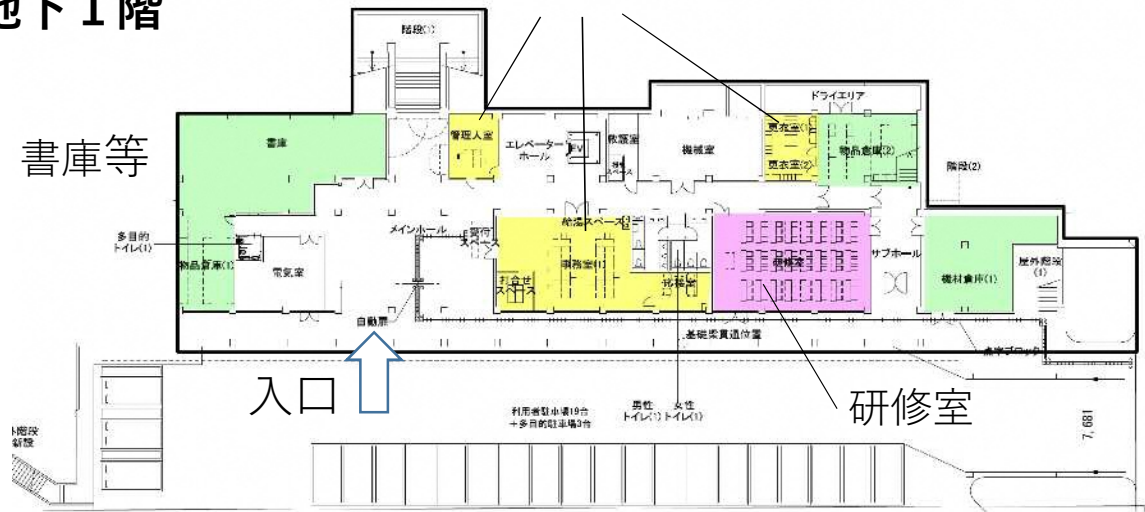
（その他：収蔵棚等備品費、展示工事費等）

■移転後の埋蔵文化財センター（各階配置図）

地下 1 階

事務所等

書庫等



1 階

收藏庫

特別収蔵庫・
機材等倉庫

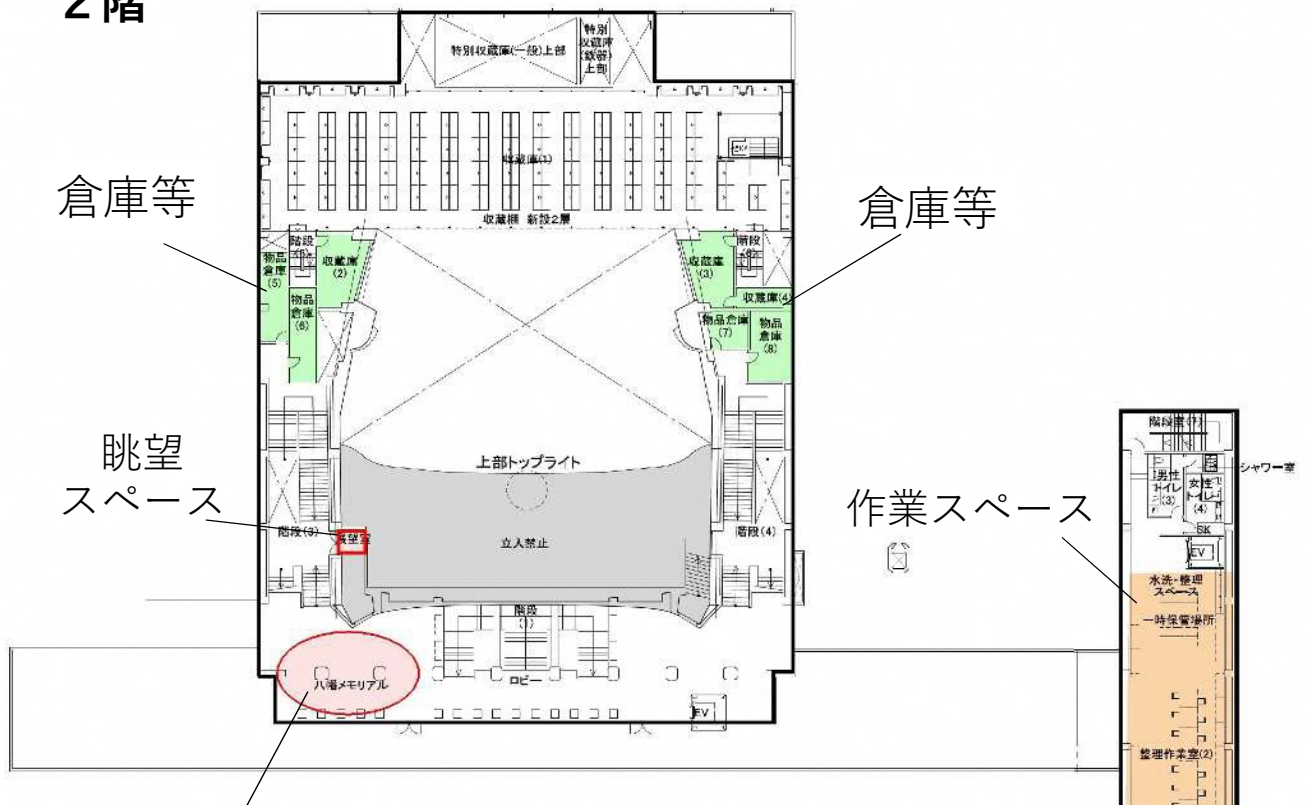
公開スペース

展示スペース

作業スペース

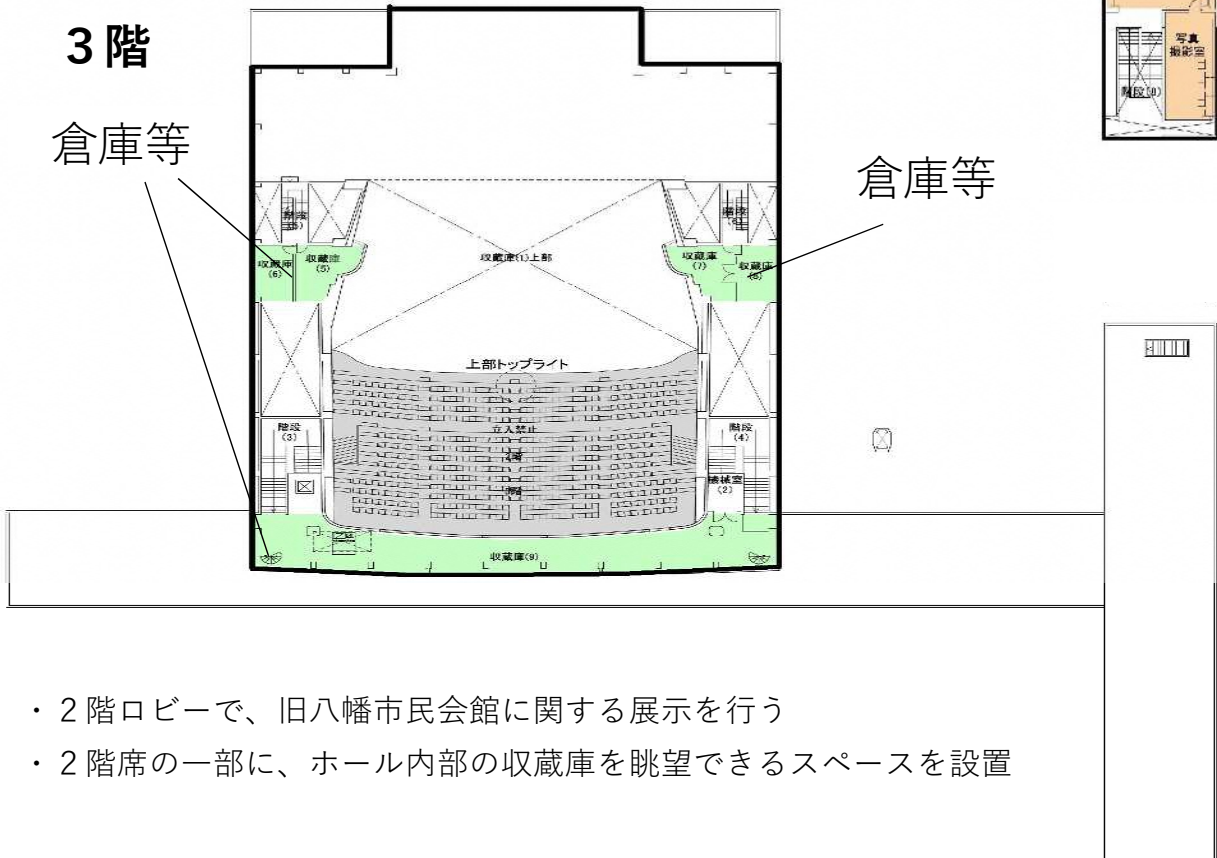
- ・来館者は地下1階から入館し、上層階に移動
- ・研修室では、講座や様々なワークショップを開催
- ・作業スペースでは発掘調査に伴う出土品の整理等を実施
- ・ホワイエを利用した開放的な展示を行う
- ・収蔵庫と整理作業室の作業風景が見学できる空間を設置

2 階



旧八幡市民会館に関する展示スペース

3 階



- ・ 2階ロビーで、旧八幡市民会館に関する展示を行う
- ・ 2階席の一部に、ホール内部の収蔵庫を眺望できるスペースを設置